



平成30年10月16日

報道関係各位

県内中学校教員との共同研究の成果論文

「誘導された成功体験が自信を生み、学業成績の向上に繋がる」

アメリカ教育研究学会公開学術誌 *AERA Open* 掲載決定のお知らせと取材のお願い

拝啓 新春の候、貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本学教育学部守一雄教授が長野市立犀陵中学校の内田昭利教諭と共同で研究してきた「中学生に自信を持たせると学業成績が上がる」ことを実証した実験研究の成果論文が、アメリカ教育研究学会(American Educational Research Association: AERA)の公開学術誌である *AERA Open* に掲載されることになりました。

自信を持つことの重要性は、教育の分野に限らず、誰もが知っていることですが、実は科学的な研究によって実証されていたわけではありません。それは自信というものが、本人の能力と密接に結びついていて、能力と切り離して自信だけを高めることが困難だったからです。例えば、「もっと自信を持って」と言うだけで、生徒に自信を持たせられるわけではありません。生徒は自分の能力を自覚した上で、その能力に応じた自信しか持てないものです。

そこで、守教授と内田教諭は、並べ替えると意味のある言葉になるような問題（アナグラム課題 30 問）を生徒に解かせ、その際に、提示トリックを使って一部の生徒にだけ易しい問題を解かせるという方法を考案しました。この方法なら、アナグラム課題をクラスメイトより多く解けた生徒に自信を持たせることができます。研究では、同じ位の能力の生徒のうちの一部にだけ、この方法で自信を持たせ、その後、自信を持った生徒の成績がどう変化するかを1年間に渡って追跡調査しました。



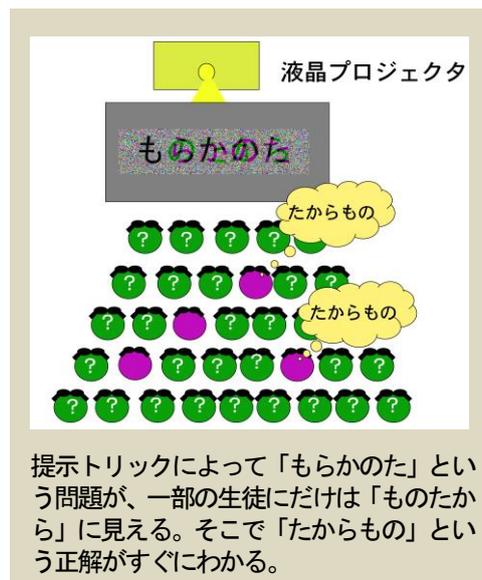
アメリカ教育研究学会
公開学術誌 *AERA Open*

この方法で自信を持たせ、その後、自信を持った生徒の成績がどう変化するかを1年間に渡って追跡調査しました。

その結果、自信を持った生徒の成績が上昇することが確認されました。(ただし、自信を持つことで成績を向上させたのは男子生徒だけで、女子生徒は自信が成績の向上に繋がりませんでした。) この成果をまとめた論文は、国際的な学術誌への投稿を繰り返し、4年間かけてついに *AERA Open* への掲載が決まった次第です。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、本研究について報道関係各社を通じて地域の皆様に広くご紹介頂くとともに、取材をよろしくお願い致します。

敬具



提示トリックによって「もらかのた」という問題が、一部の生徒にだけは「ものたから」に見える。そこで「たからもの」という正解がすぐわかる。